

御所市学校教育ビジョン (2025-2029)

つながるおもい  
ひろがるみらい  
御所の学校いいね！



2025年3月

御所市教育委員会

# 目 次

|                              |          |
|------------------------------|----------|
| I. 御所市学校教育ビジョン（2025-2029）とは  |          |
| 1 御所市学校教育ビジョンについて            | ..... 1  |
| 2 御所市学校教育ビジョンの位置づけと策定経緯      | ..... 2  |
| II. 御所市の学校教育を取り巻く状況          |          |
| 1 これからの時代の学校教育に求められるもの（1）（2） | ..... 3  |
| 2 御所市の小中学校の現状（課題・特長）         | ..... 5  |
| 3 今後5年間で御所市の学校教育が目指すもの       | ..... 8  |
| III. 御所市の小中学校における教育・学びの推進    |          |
| 1 学校教育ビジョンのスローガン             | ..... 9  |
| 2 4つの「基本目標」と2つの「連携の視点」について   | ..... 10 |
| 3 4つの重点プロジェクト（GOSEプラン）       | ..... 11 |
| ①学びを変えるプロジェクト                | ..... 12 |
| ②一つの学校プロジェクト                 | ..... 14 |
| ③みんなの未来プロジェクト                | ..... 16 |
| ④地域総がかりプロジェクト                | ..... 18 |
| IV. 今後に向けて                   | ..... 20 |

## I-1 御所市学校教育ビジョンについて

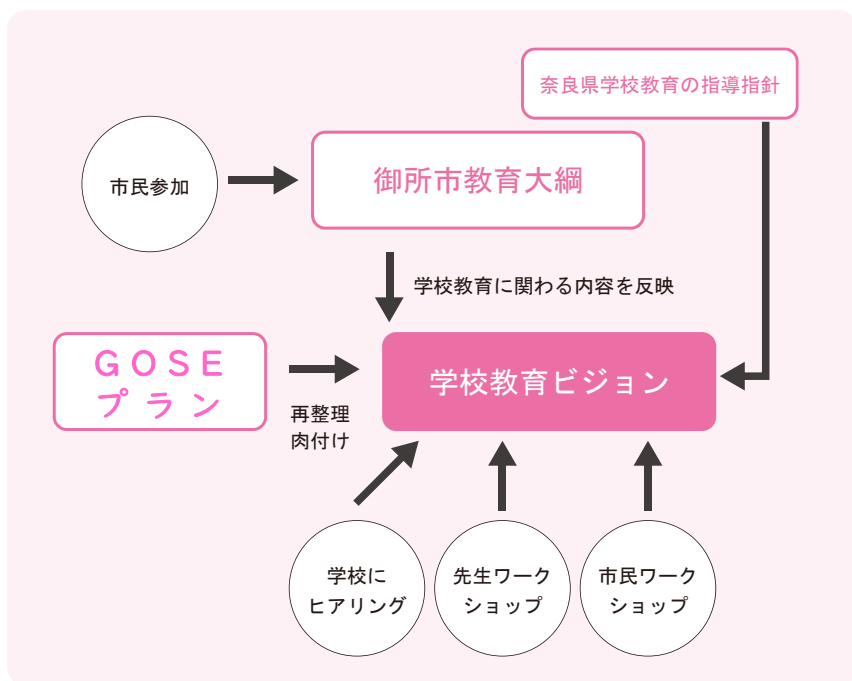
子どもたちが生きる未来は、これまでの時代とは大きく変わります。変化が速く、答えのない時代に求められるのは、「自ら考え、挑戦し、新しい価値を生み出す力」です。これまでの教育は「みんなと同じことを、同じ方法で学ぶ」ことが重視され、一人一人の個性や創造力を十分に活かしきれない部分がありました。今こそ、「子どもたちの可能性を最大限に伸ばす教育」へと転換していく必要があります。

しかし、本市では少子化の進行により、学校の小規模化や少人数化が進んでいます。学級や学校の規模が小さくなることで、子どもたちが多様な考えに触れる機会が減少します。また、限られた人間関係の中では成長に必要な学びの機会が制約され、未来を生き抜く力を十分に育むことも困難となります。

そこで御所市では、小規模・少人数の課題を克服し、市内の小中学校を一つの学校に見立てた取組を進めます。学校間の連携を深めるとともに、オンラインを活用した授業や共同プロジェクトを推進し、多様な学びの機会を創出します。また、地域や社会と結びついた学びを展開し、子どもたちが主体的に考え、行動できる環境を整えます。

これらの目標を実現していくための今後5年間（2025-2029年度）の指針として、この新しい『御所市学校教育ビジョン』をとりまとめました。

## I-2 御所市学校教育ビジョンの位置づけと策定経緯



本ビジョンは、御所市の教育や学びに関わる総合的な指針である『御所市教育大綱』を背景として、特に御所市の小中学校における今後5年間の方向性や取組内容を示したものです。

また、学校規模適正化推進事業においてとりまとめた『GOSEプラン』をベースに、ヒアリング調査やワークショップを通じて、学校関係者をはじめ市民の方々の想いや意見を加えてつくりあげました。



## Ⅱ-Ⅰ これからの時代の学校教育に求められるもの

### (Ⅰ) 教育の転換・人材育成の仕組みが変わっていく

これまでとは産業構造が大きく変化し、これからは求められる力や思考・発想も大きく変化します。

- 決められたことをこなす時代から、新しい価値を生み出す時代へ -

これまで

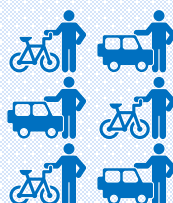
これから

社会

#### 工業化社会

たくさん作ってたくさん売る  
「モノ」を所有

- ・大量生産・大量消費
- ・縦割り
- ・自前主義
- ・新卒一括採用、年功序列



人口減少・少子化

#### DX時代 Society5.0

新たなサービスの誕生、他分野・業種連携  
データに大きな価値

- ・新たな価値創造
- ・レイヤー構造
- ・分野、業界を越えた連携
- ・人材の流動化



教育・人材育成

#### 同質性・均質性

一律一様の教育・人材育成



一斉授業

平等・公平主義

みんな一緒に みんな同じペースで みんな同じことを

**測りやすい力重視**  
限られた時間で自らの記憶や思考だけを頼りに素早く正確に解く力を評価

**縦割り構造**  
学校種、学校、学年、学校、教科などの縦割り構造に基づく教育の提供

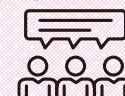
**社会的・文化的バイアス**  
学びや進路の選択を制約するバイアスの存在（女子の文理選択 直接的な進学だけが選択肢）

一人一台端末  
オンライン環境

#### 多様性を重視した教育・人材育成



個別最適な学び



協働的な学び

それぞれのペースで自分の学びを 対話を通じた「納得解」の形成

**探究力重視**  
自ら学びを調整し、社会に生きる学びや試行錯誤しながら、自ら課題を設定し課題に立ち向かう「探究力」を評価

**社会とシームレスな協働体制**  
社会や専門的な力を入れて、一人ひとりの特性を重視して、その力をさらに伸ばす構造

**子どもの主体性**  
大人の成功体験や経験にとらわれず、子どもの好奇心や個人の興味・関心に基づいた進路選択の実現

正解のない課題に挑み、協力しながらアイデアを形にし、自ら考え、行動する力が求められる

## II-1 これからの時代の学校教育に求められるもの

### (2) 教室の中の「多様性」の進展

発達障害の可能性のある子ども  
(学習面or行動面で著しい困難を示す)

発達障害  
4.7人  
(13.5%)

ADHD (注意欠陥多動性障害)

いつもそわそわして、じっと座ってられない。

いろいろなものに気が散り、授業に集中できない

LD (学習障害、読字障害)

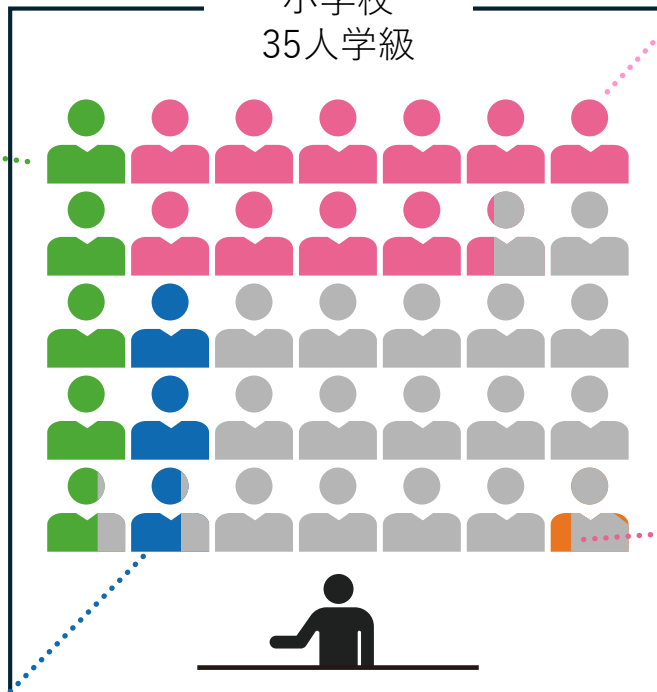
文字が流暢に読めなかったり、板書に時間がかかったりして、授業の進度に合わせられない

ASD (自閉症スペクトラム)

学習活動の見通しが持てないと不安になる。

暗黙のルールがわからず、突然発言してしまう

小学校  
35人学級



不登校・不登校  
傾向の子ども

不登校・不登校傾向  
2.7人  
(7.9%)

※年間30日以上欠席の  
児童生徒の割合

家庭の文化資本の違い

家にある本が  
少ない子ども  
10.4人  
(29.8%)

家にある本の冊数が少なく学力  
の低い傾向が見られる子ども

※家にある本の冊数と正解率の間に相関  
家に本が25冊以下と答えた割合

日本語を話す  
頻度の違い

家で日本語をあまり  
話さない子ども  
0.2人  
(0.7%)

家で日本語を「いつも話して  
いる」子どもと「全くはなさ  
ない」子どもの間には正答率  
に差が見られる

※家で日本語を「全く話さない」  
「ときどき話す」と答えた割合

一人一人みんな違う多様な子どもが集う教室で、先生が一人で全員に同じ方法で教える  
「紙や黒板ベースの一斉授業スタイル」でやっていくことには限界があります。

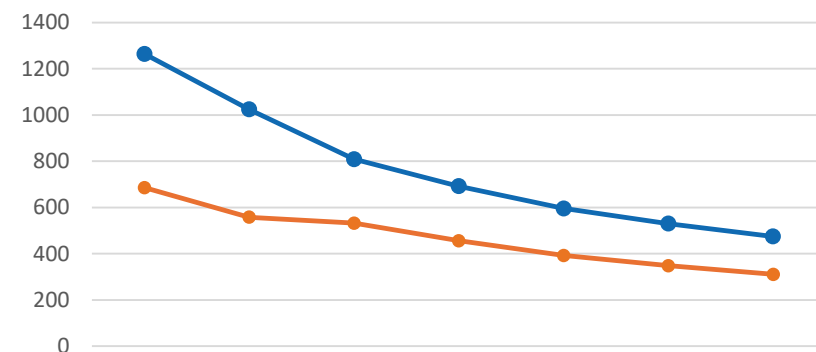
## II-2 御所市の小中学校の現状(課題)

各種資料やデータ、各学校へのヒアリング調査などから、御所市内の小中学校では主に児童生徒数の減少に伴う小規模校化から生じる課題が顕著となっています。

### ●学校規模(学級数)と再編に関する目安

| 学校  | 学級数     | 区分    | 概要                              | 再編について | 備考              |
|-----|---------|-------|---------------------------------|--------|-----------------|
| 小学校 | 1～5学級   | 過小規模校 | 複式学級が存在する規模                     | 速やかに検討 | 葛小・名柄小          |
|     | 6学級     | 小規模校  | クラス替えができない規模                    | 速やかに検討 | 秋津小・掖上小・葛城小・大正小 |
|     | 7～11学級  | 小規模校  | 全学年ではクラス替えができない規模               | 要検討    | 御所小             |
|     | 12～18学級 | 適正規模校 | 適正規模                            |        |                 |
| 中学校 | 3学級     | 小規模校  | クラス替えができない規模                    | 速やかに検討 | 葛中・葛上中・大正中      |
|     | 6～8学級   | 小規模校  | 全学年ではクラス替えができず、同学年に複数教員を配置できる規模 | 要検討    | 御所中             |
|     | 12～18学級 | 適正規模校 | 適正規模                            |        |                 |

### ●児童生徒数の推移と予測



|      | 平成22年 | 平成27年 | 令和2年 | 令和7年 | 令和12年 | 令和17年 | 令和22年 |
|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| ●児童数 | 1264  | 1024  | 809  | 692  | 596   | 530   | 474   |
| ●生徒数 | 686   | 558   | 532  | 456  | 392   | 348   | 311   |

### 児童生徒数の減少から生じる 子どもたちに関する課題

- ・クラス替えが全部または一部の学年でできない
- ・多様な学習形態や指導形態がとりにくい
- ・人間関係が固定化してしまう
- ・子ども同士の切磋琢磨が難しい
- ・部活動の種類の制限と部員不足により存続が困難

### 小規模校化から生じる 教員配置の減少にともなう課題

- ・同学年や同教科の担当教員と相談することが難しい
- ・中学校で全教科の教科担当が配置できない
- ・免許外指導の教科が生まれる可能性がある
- ・校務分掌などの一人当たりの仕事量が多い
- ・切磋琢磨する環境や指導技術の伝達が困難

## II-2 御所市の小中学校の現状(特長)

御所市の小中学校では、今後も小規模校化・少人数化は進むため、それぞれの学校の特長を生かしながら、市内の学校を一つの学校と見立てて「ONE SCHOOL化」を進めます。

### 御所小学校



ごせまちをフィールドに総合学習を実施

ICTを活用し夏休みのオンライン登校を実施

平成29年度302人 ▶ 令和12年度206人 (減少率31.2%)

### 大正小学校



地元の県立高等学校と連携した授業の実施

地域のボランティアによる見守り活動の実施

平成29年度225人 ▶ 令和12年度150人 (減少率33.3%)

### 掖上小学校



学力向上に向けて、算数ルームを設置

地域の歴史に応じた特色ある人権教育を推進

平成29年度138人 ▶ 令和12年度62人 (減少率55.1%)

### 名柄小学校



学年合同授業や縦割り活動の実施

児童数が少ない中で、地域や保護者の協力が大きい

平成29年度61人 ▶ 令和12年度25人 (減少率59%)

### 秋津小学校



親も秋津小学校出身の児童が多く地域とのつながりが強い

地域団体やボランティアが学校と連携・協力

平成29年度94人 ▶ 令和12年度34人 (減少率63.8%)

### 葛城小学校



金剛・葛城山麓を望む自然豊かな小規模校

150周年事業を通じて地域とつながりを強化

平成29年度84人 ▶ 令和12年度31人 (減少率63.1%)

各小中学校へのヒアリングや教員ワークショップの結果をもとに作成

## II-2 御所市の小中学校の現状（特長）

御所市の小中学校では、今後も小規模校化・少人数化は進むため、それぞれの学校の特長を生かしながら、市内の学校を一つの学校と見立てて「ONE SCHOOL化」を進めます。

### 御所中学校



地域を関わる「御所学」の実施

生徒数が比較的多く、クラス替えが可能

平成29年度254人→令和12年度185人（減少率27.2%）

### 葛上中学校



Googleのスプレッドシートを活用し、情報共有

部活動の参加率50%

平成29年度68人→令和12年度37人（減少率45.6%）

### 大正中学校



地域の保育所との交流活動を実施

生活班を中心とした学習活動や学校行事の実施

平成29年度128人→令和12年度59人（減少率53.9%）

### 葛小中学校



縦割り活動や合同授業の実施

体育祭や小中祭など小中合同行事の実施

小学部平成29年度82人→令和12年度37人（減少率54.9%）

中学部平成29年度29人→令和12年度17人（減少率41.4%）

## II-3 今後5年間で御所市の学校教育が目指すもの

御所市の子どもたちが生きる未来は、変化が激しく、正解のない時代です。そのような時代を生き抜くためには、「自ら考え、挑戦し、新しい価値を生み出す力」が求められます。そこで本市では、御所市の子どもたちに育みたい力として、次の4つの力を重視し育成を目指します。

### ① 新しい価値を生み出す力

STEAM教育を活かし、ゼロからイチを生み出す創造力を育む。



### ② 自分で学び、考える力

夢中になれることを見つけ、深く学び続ける力を育む。



### ③ 社会とつながり、行動する力

地域や社会の課題を自分ごととして捉え、解決に向けて行動する力を育む。



### ④ 多様な人と協働し、ともに生きる力

互いの違いを尊重し、共によりよい社会をつくる力を育む。



御所市では、小規模・少人数の課題を克服し、上記4つの力を育みます。これらは、御所市教育大綱で定めた「御所で育む10の力」にも対応しています。これからの御所市の学校は、子どもたちが夢中になれる学びの場へ。「今」も「未来」も幸せになる教育を、御所市は本気でつくっていきます。

※ STEAM教育とは、Science:科学、Technology:技術、Engineering工学、Art:芸術、Mathematics:数学を総合的に学ぶ教育のこと

※ 「御所で育む10の力」については『御所市教育大綱』を参照のこと

## ⅢーⅠ 学校教育ビジョンのスローガン

# つながるおもい ひろがるみらい 御所の学校いいね！

本ビジョンでは、学校を中心とした教育の未来を見据え、「つながるおもい ひろがるみらい 御所の学校いいね！」というスローガンを掲げます。これは、子どもたちや教職員、保護者、地域の方々が互いに「つながる」ことで、学びの文化や教育の営みを次の世代へ「つなぐ」ことの大切さを示しています。

また、御所市教育大綱の基本理念である「みんなで育む御所のみらい」にあるように、学校教育においても、多様な立場の人々が協力し合いながら「みらい」を創り上げていくことを目指します。学校関係者のみならず、市民一人一人が子どもたちの成長や学びを支える主体となり、学校を地域全体で育てていくという強い意志を、このスローガンに込めています。

## Ⅲ-2 4つの「基本目標」と2つの「連携の視点」について

新しい学校教育ビジョンでは、スローガンに基づき、これからの時代に求められる力を育むために4つの基本目標を掲げます。さらに、それらを実現するための2つの連携の視点を定め、学校・地域が一体となって子どもたちの成長を支えていきます。

### 4つの基本目標

基本目標1



#### つぎの時代を拓く確かな学力を育む

知識を身につけるだけではなく、それを活用し、新たな価値を生み出す力を養う。

基本目標2



#### なりたい自分になるための多様な力を育む

困難を乗り越え、自分らしく生き抜くための態度や力を培う。

基本目標3



#### がっちり支え合い、地域を豊かにする市民性を育む

地域に根差し、多くの人との関わることで、社会を支える人材を育てる。

基本目標4



#### 理解と共感でみんなが安心できる学びの場をつくる

誰もが安心して学びに取り組める仕組みを構築する。

### 2つの連携の視点

連携の視点1



#### 学校間・教員同士の連携

教員チームの組織化や支援体制の整備を進め、学校の枠を超えた協力体制を築く。

連携の視点2



#### 学校と保護者・地域との連携

保護者の学びの機会を創出し、地域とともに学校や子どもたちを支える仕組みを築く。10

### III-3 4つの重点プロジェクト

本ビジョンの実現に向け、先に示した4つの基本目標と2つの連携の視点を具体化するために、今後5年間で「GOSEプラン」として4つの重点プロジェクトを推進し、未来を生き抜く力を育む教育環境を整えていきます。

① 学びを変える  
プロジェクト  
Good  
education

子どもたち一人一人に最適な学びを提供し、「そろえる教育」から「伸ばす教育」へと転換します。デジタルツールを活用し、自ら考え学ぶ力を伸ばすとともに、対話や協働を通じて学び合う場を充実させます。

② 一つの学校  
プロジェクト  
One  
Team

市内の小中学校を「ONE SCHOOL」と捉え、オンライン授業や教材の共有、統一された学習カリキュラムや学習支援システムの導入を進めます。どの学校にいても質の高い教育を受けられる環境を整え、学校間の連携を強化することで学びの選択肢を広げます。

③ みんなの未来  
プロジェクト  
Success  
for future

すべての子どもが安心して学べる環境を整えます。学校に行きづらい子どもたちへの支援を充実させるとともに、いじめの早期発見・早期対応や発達支援を強化し、誰一人取り残さない学校づくりを進めます。

④ 地域総がかり  
プロジェクト  
Everyone raise  
children

コミュニティ・スクールを市内全域に拡大し、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの成長を支える仕組みを構築します。多様な人々と関わりながら学ぶ場をつくることで、市民性を育み、地域とともに成長する教育を推進します。

## ① 学びを変えるプロジェクト Good education

### 学習カリキュラムの統一

学習カリキュラムの統一は、学校が小規模校化・少人数化することによるデメリットを抑制するための基本的な施策として推進

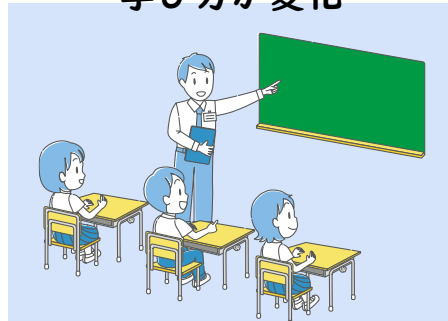
市内各7小学校、4中学校それぞれの進度や内容を合わせるために学習カリキュラムの統一

### STEAM教育の推進

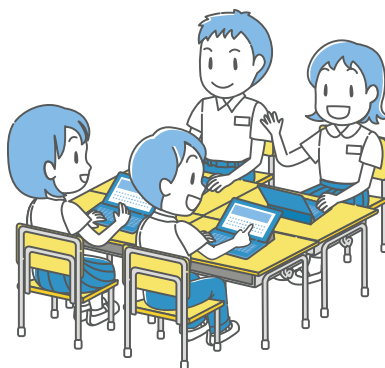
S (Science科学) T (Technology技術) E (Engineering工学) A (Art芸術・教養) M (Mathematics数学) を総合的に学ぶ教育を推進

各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習の推進

### 学び方が変化



いまは  
主体的、対話的で深い学びも



### ICTの効果的な活用

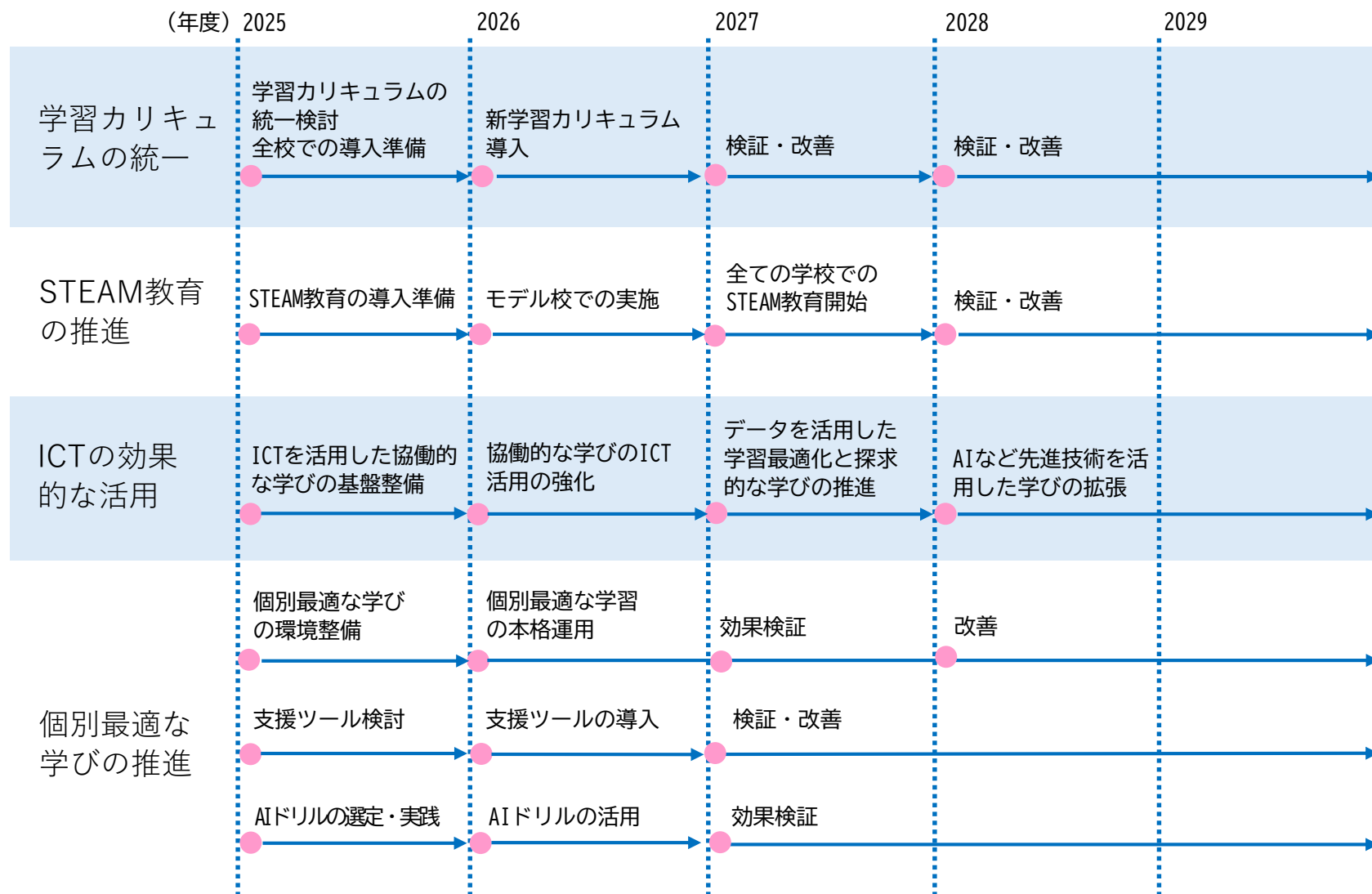
一斉学習、個別学習、協働学習（複数校を含む）などさまざまな場面でのICTを効果的に活用し、個別最適な学びの充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

### 個別最適な学びの推進

一人一人の学び方のスタイルや学び方の特徴などに合わせた個人のデータベースの活用や支援ツールの活用

個々の進度に対応するためのAIドリルを活用し、習熟度の確認や一人一人に応じたペースでの学びの環境づくり

## ① 学びを変えるプロジェクト Good education



## ② 一つの学校プロジェクト One Team

### 大学や高校との連携

教育活動の充実と地域社会の発展、人材育成に寄与することを目指し、奈良県教育委員会・奈良教育大学・県立御所実業高等学校・県立青翔中学校・高等学校と包括連携

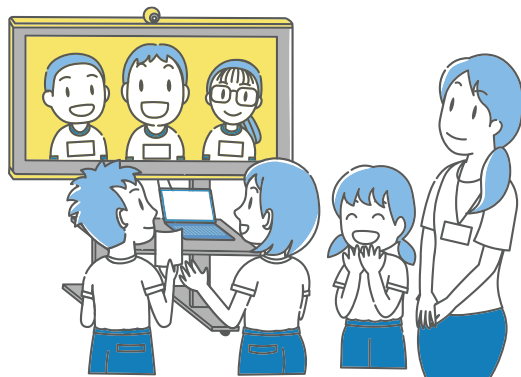
### 遠隔合同授業の推進

少人数のクラスで、対話的・協働的な学びを実現するために、最先端のテクノロジーをフル活用して、近隣の学校や遠隔地をつなぐ遠隔合同授業を実施

遠隔合同授業をカリキュラムに位置づけ、計画的に実施

### 合同部活動の展開

少人数で部活動の存続が厳しくなっているため、合同練習や合同チームでの大会参加を目指し、市内4中学校で合同部活動の実施



### 学校の枠を超えた 教員チームの組織化

児童生徒数の減少により、各学校に配置される教員定数が減少しているため、市内の学校間をICTでつなぎ、教務や教材に関するデータを共有化

すべての学校をつなぐ教科部会や学年部会の実施

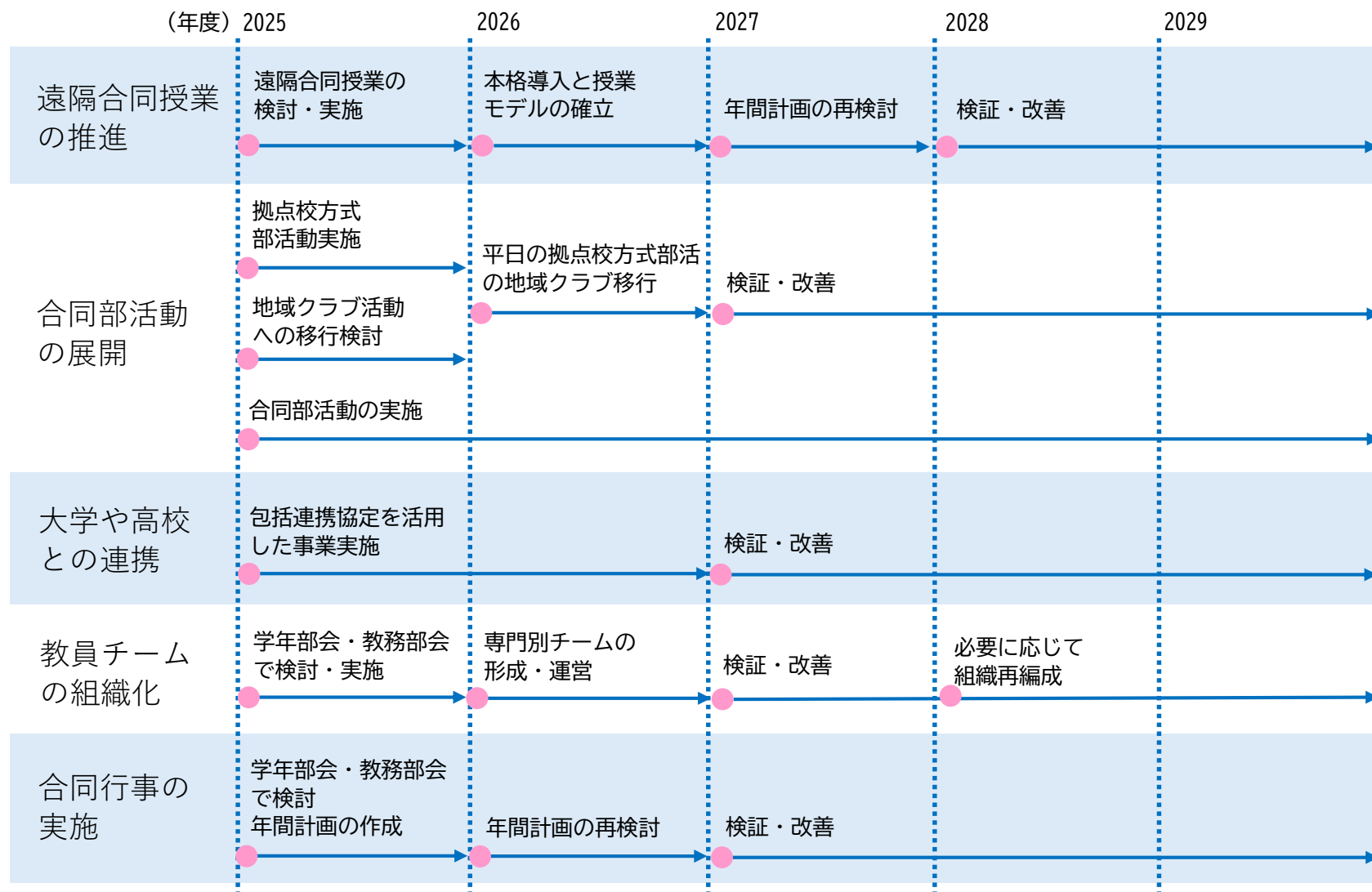
### 合同行事の実施

小規模校の遠足や修学旅行などを合同実施

「御所学」の発表会の合同開催

市内合同音楽会などを実施

## ② 一つの学校プロジェクト One Team



### ③ みんなの未来プロジェクト Success for future

#### 個別の支援を必要とする

##### 児童生徒に対する支援体制の充実

通級教室の設置や特別支援教育支援員の配置を進め、個々の教育的ニーズに応じた支援を充実

発達に関する教育相談を実施、必要に応じて医療・福祉など関係機関と連携し、継続的な支援体制の構築

##### 教育相談体制の充実

保護者からの悩みや相談を受ける体制をより重層的にしていくため専門家による相談体制の構築

SCやSSWを配置し、児童生徒の心理的・社会的課題への対応するとともに、関係機関と連携して適切な支援につなげる体制を構築

##### 気づき見守りアプリの活用

「気づき見守りアプリ」を全教職員で活用し、小さな変化を共有・連携することで、子どものSOSを早期に発見・対応できる体制を強化



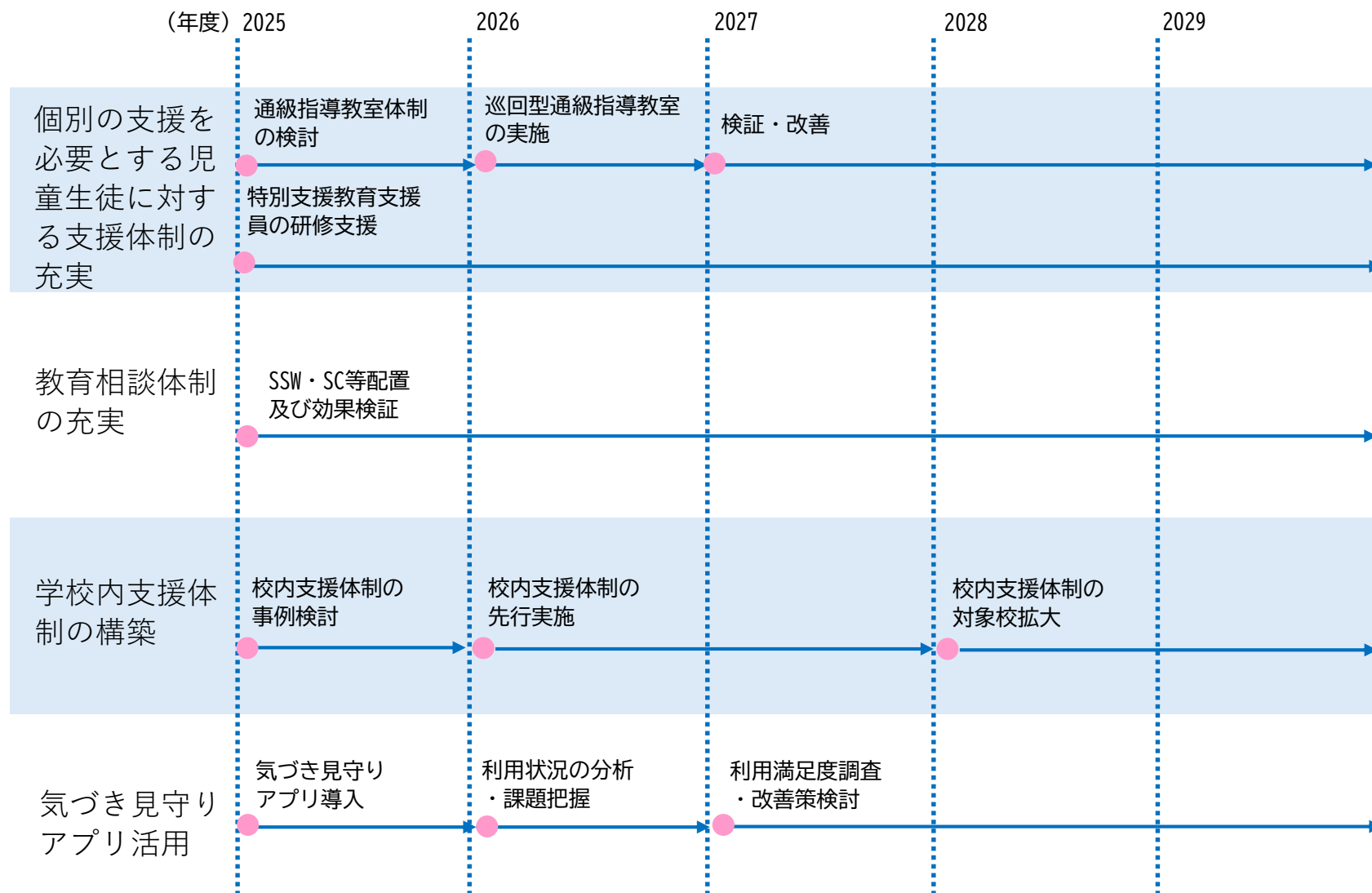
##### 学校内支援体制の構築

教室以外で過ごして学べるサポートルームを学校内に設置し、早期支援を構築

※スクールソーシャルワーカー（SSW）は、福祉的な専門的知識をいかし、児童生徒の生活面の課題解決に向けて、家庭や学校、関係機関と連携し、環境への働きかけを行う専門職

※スクールカウンセラー（SC）は、児童生徒の心理的な問題に対応し、個別のカウンセリングや相談、教職員や保護者への助言を行い、必要に応じて医療・福祉などの関係機関と連携しながら支援にあたる専門職

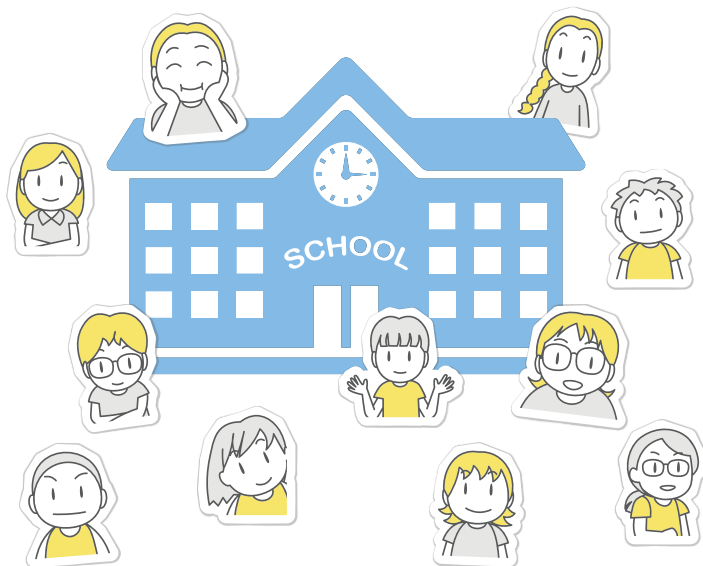
### ③ みんなの未来プロジェクト Success for future



## ④ 地域総がかりプロジェクト Everyone raise children

### コミュニティ・スクールの 市内全域化

学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、協働して学校運営に取り組むことで、共に学校や子どもを支えていく仕組みである「コミュニティ・スクール」を推進



### 教育講演会、情報発信

新しい教育の理解を進めるための講演会の実施

SNS等を通じた情報発信

### 地域資源を活用した体験活動の充実

地域住民や子育て支援団体等と連携し、本市の自然や文化、食を活かした体験学習を推進

地域住民や異なる世代との交流などを通じて、子どもたちの自ら考える力を向上させ、豊かな心を醸成

子どもの安全・安心な居場所づくりを推進

### 部活動の地域展開

国は部活動の地域移行に向けて、2023～2025年度を「改革推進期間」として位置づけ2026年度から地域連携・地域展開を目指す方針

本市においては、まずは土日・休日の部活動について2025年度から段階的に地域展開を推進

## ④ 地域総がかりプロジェクト Everyone raise children

(年度) 2025 2026 2027 2028 2029

コミュニティ・  
スクールの市内  
全域化

大正中・御所中  
コミュニティ・  
スクールの実施

検証・改善

学校再編に向けて

葛上中・葛中コミュ  
ニティ・スクールの  
準備委員会設置

葛上中・葛中コミュ  
ニティ・スクール  
実施

検証・改善

学校再編に向けて

教育講演会の実施

教育講演会・  
情報発信

随時SNS等で発信

デジタル連絡手段  
の導入

検証・改善

部活動の地域展開

部活動地域展開  
実証事業の実施

段階的に土日の部  
活動を地域へ移行

移行を推進

地域クラブ活動準備

平日の拠点校方式部  
活の地域クラブ移行

地域資源を活用  
した体験活動の  
充実

学校支援ボランティ  
ア募集方法の検討・  
活動内容の検討

学校支援事業の実施

事業の検証・改善

地域資源を活用した  
体験活動の実施

事業の検証・改善

活動内容発信

事業の検証・改善

## 今後に向けて

本ビジョンは今後5年間（2025-2029年度）の学校教育の指針として、「つながるおもい ひろがるみらい御所の学校いいね！」というスローガンのもとに様々な取組を進めていきます。小規模・少人数の課題を克服し、学校間の連携を深めながら多様な学びの機会を創出するとともに、地域や社会と結びついた学びを展開し、子どもたちが主体的に考え、行動できる環境を整えます。

また、御所市においては、この5年間に並行して2031年度を目標とした学校再編の取組も進めていきます。学校再編に向けては、その計画や教育等の検討などにおいて、引き続き保護者をはじめとする市民の皆さんや、教員の皆さん、子どもたちの参加によって進めていきたいと考えています。

さらに、今後5年間における本ビジョンの推進による成果は、学校再編後のカリキュラムや運営などに活かしていきます。御所の子どもたちの未来を、これからもみんなで育んでいきましょう。

